

課題名	78 電照ギクの無摘心栽培技術の確立	分類	①												
	1) キクの12~1月出し栽培におけるさし穂、さし芽苗の低温処理法														
試験研究年次	63~1年 (完了)														
<p>I 目的</p> <p>電照ギクの12月出し無摘心栽培における、穂、苗の種類と低温処理温度及び期間が生育開花に及ぼす影響を検討し、栽培技術の改善を図る。</p>															
<p>II 試験方法</p> <p>1 供試品種 (試験Ⅰ) 秀芳の力、(試験Ⅱ) 秀芳の力、太陽</p> <p>2 試験区の構成</p> <p>試験Ⅰ 穂、苗の種類と低温処理 (63年) 試験Ⅱ さし穂とさし芽苗の低温処理 (1年)</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 穂、苗の種類</td> <td>さし穂、さし芽苗</td> <td>(1) 低温処理温度</td> <td>0℃</td> </tr> <tr> <td>(2) 低温処理温度</td> <td>0℃、2.5℃、5℃</td> <td>(2) さし穂の低温処理期間</td> <td>2週間、3週間、4週間、5週間</td> </tr> <tr> <td>(3) 低温処理期間</td> <td>2週間、4週間、6週間</td> <td>(3) さし芽苗の低温処理期間</td> <td>1週間、2週間、3週間、4週間、5週間</td> </tr> </table> <p>3 耕種概要</p> <p>(1) さし芽時期 (試験Ⅰ) 無処理区 昭和63年9月2日、低温処理区 定植4、6及び8週間前 (試験Ⅱ) 無処理区 平成1年8月16日、低温処理区 定植8及び9週間前</p> <p>(2) さし芽期間 2週間</p> <p>(3) 定植時期 (試験Ⅰ) 昭和63年9月16日 (試験Ⅱ) 平成1年9月1日</p> <p>(4) 電照期間 (試験Ⅰ) 9月16日~11月4日 (深夜4時間光中断) (試験Ⅱ) 9月1日~10月23日 (")</p> <p>(5) 温度管理 (試験Ⅰ) 昭和63年10月20日~11月4日15℃、11月5日~26日16℃、11月26日以降12℃ (試験Ⅱ) 平成1年9月1日~11月7日15℃、11月8日以降開花まで13℃</p>				(1) 穂、苗の種類	さし穂、さし芽苗	(1) 低温処理温度	0℃	(2) 低温処理温度	0℃、2.5℃、5℃	(2) さし穂の低温処理期間	2週間、3週間、4週間、5週間	(3) 低温処理期間	2週間、4週間、6週間	(3) さし芽苗の低温処理期間	1週間、2週間、3週間、4週間、5週間
(1) 穂、苗の種類	さし穂、さし芽苗	(1) 低温処理温度	0℃												
(2) 低温処理温度	0℃、2.5℃、5℃	(2) さし穂の低温処理期間	2週間、3週間、4週間、5週間												
(3) 低温処理期間	2週間、4週間、6週間	(3) さし芽苗の低温処理期間	1週間、2週間、3週間、4週間、5週間												
<p>III 主要成果の概要</p> <p>1 電照ギクの12月出し無摘心栽培は、さし穂またはさし芽苗を0~2.5℃で4週間低温処理することによって、心腐れの発生が少なく定植後の草丈の伸長が促進される。</p> <p>2 さし穂とさし芽苗の低温処理を併用する場合は、0℃でさし穂3週間とさし芽苗3週間との組み合わせが生育開花の揃い、切花品質の点からも優れる。</p> <p>3 心腐れ株は、さし穂またはさし芽苗の単一処理では6週間、併用処理では7週間で発生しやすい。一方、心止り株は専用親株を用いると発生が少ない。</p>															

IV 主要成果の具体的データ

第1表穂、苗の種類と低温処理(63年)

低温処理方法	心腐れ株率	平均開花日	切花長
	週間 %	月日	cm
無処理	0	1・2	72.6
2	0	12・31	75.1
0℃	4	12・29	80.7
さ	6	12・30	74.1
し	2	12・31	74.5
穂 2.5℃	4	12・29	84.9
	6	12・29	74.0
	2	12・31	74.9
5℃	4	12・28	78.2
	6	12・29	75.5
	2	12・30	75.1
0℃	4	12・29	76.7
さ	6	12・28	87.1
し	2	12・30	77.5
芽 2.5℃	4	12・28	79.0
苗	6	12・26	86.4
	2	12・30	80.1
5℃	4	12・29	80.9
	6	12・27	82.3

第2表さし穂とさし芽苗の低温処理(1年)

品種	穂+苗の低温処理期間	心腐れ株率	平均開花日	切花長
	週間	%	月日	cm
	無処理	0	12・21	90.4
秀	5w+1w	31	12・20	100.0
芳	4w+2w	11	12・20	104.6
の	3w+3w	0	12・20	107.1
力	2w+4w	5	12・19	107.8
	5w+2w	20	12・18	105.0
	4w+3w	15	12・19	110.9
	3w+4w	31	12・19	108.9
	2w+5w	20	12・18	110.0
	無処理	0	12・22	85.6
太	5w+1w	21	12・21	91.9
	4w+2w	0	12・21	89.0
	3w+3w	0	12・20	94.0
	2w+4w	3	12・21	97.4
陽	5w+2w	24	12・19	85.0
	4w+3w	8	12・20	100.0
	3w+4w	3	12・19	100.4
	2w+5w	23	12・19	91.1

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 県内の電照ギクの無摘心栽培産地における穂、苗の低温処理技術として活用できる。
- 2 さし穂及びさし芽苗は素質が重要であるので、専用親株の側枝は1~2回摘心してから採穂する。

VI 今後の研究上の問題点

- 1~2月出し無摘心栽培における低温処理法の検討。

VII 資料名

62~1年度 福岡県農業総合試験場 園芸研究所 花き花木研究室